

品質性能試験報告書

試験結果は以下のとおりであることを証明する。



一般財団法人 建材試験センター
中央試験所長 黒木 勝
埼玉県草加市稻荷5丁目2-1番20号



試験名称	木造建築用接合金物を使用した接合部の引張試験
依頼者	会社名：株式会社 カナイ 所在地：埼玉県八潮市西袋717-1
試験体 (依頼者 提出資料)	1. 接合金物 名称：木造建築用柱仕口金物 商品名：在来工法用ウォールコーナー 床合板仕様 用途：柱脚に使用する金物（中柱型） 寸法：50×73.2×163.2mm，厚さ3.2mm 2. 接合具 木ねじ：φ6.0×75mm，柱側7本使用 φ6.0×120mm，横架材側4本使用 3. 使用軸組等 柱：樹種；すぎ，寸法；105×105mm 横架材：樹種；すぎ，寸法；105×105mm 床合板：構造用合板（JAS特類2級），厚さ30mm 4. 試験体数 7体（うち1体予備試験体） 参照：図-1及び図-2（試験体の形状・寸法）
試験方法	木造軸組工法住宅の許容応力度設計（2008年度版）（企画編集・発行：財団法人日本住宅・木材技術センター）の6章「試験方法と評価方法」に従って行った。試験方法を図-3に示す。
試験結果	短期基準引張耐力（Pot）：15.5kN ただし，横架材の固定にはM16ボルトと角座金W9×80mmを使用した。 耐力算定基礎資料：表-1 荷重-変位曲線：図-4～図-6 破壊状況：写真-1～写真-6
備考	当該試験結果から，厚さ30mmの床合板を介した柱-横架材接合部に使用する接合金物「在来工法用ウォールコーナー 床合板仕様」は，必要耐力15.0kN（15kN用引き寄せ金物）以上であることが明らかとなったため，平成12年建設省告示第1460号表三（と）に定める接合方法の性能を満足する。
試験期間	平成25年 4月8日～11日
担当者	構造グループ 統括リーダー 川上 修 主任 上山 耕平 庄司 秀雄（主担当）
試験場所	中央試験所

品質性能試験報告書

試験結果は以下のとおりであることを証明する。



一般財団法人 建材試験センター
中央試験所長 黒木 勝
埼玉県草加市稲荷5丁目2-1番20号



試験名称	木造建築用接合金物を使用した接合部の引張試験
依頼者	会社名：株式会社 カナイ 所在地：埼玉県八潮市西袋717-1
試験体 (依頼者 提出資料)	<p>1. 接合金物 名称：木造建築用柱仕口金物 商品名：在来工法用ウォールコーナー（床合板30mm仕様） 用途：柱脚に使用する金物（隅柱型） 寸法：50×73.2×163.2mm，厚さ3.2mm</p> <p>2. 接合具 木ねじ：φ6.0×75mm，柱側7本使用 φ6.0×120mm，横架材側4本使用</p> <p>3. 使用軸組 柱：樹種；すぎ，寸法；105×105mm 横架材：樹種；すぎ，寸法；105×105mm 床合板：構造用合板（JAS特類2級），厚さ30mm</p> <p>4. 試験体数 7体（うち1体予備試験体） 参照：図-1 及び 図-2（試験体の形状・寸法）</p>
試験方法	木造軸組工法住宅の許容応力度設計（2008年度版）（企画編集・発行：財団法人日本住宅・木材技術センター）の6章「試験方法と評価方法」に従って行った。試験方法を図-3に示す。
試験結果	<p>短期基準引張耐力（Pot）：18.2kN</p> <p>ただし，横架材の固定にはM16ボルトと角座金W9×80を使用した。</p> <p>耐力算定基礎資料：表-1 荷重-変位曲線：図-4～図-6 破壊状況：写真-1～写真-6</p>
備考	<p>当該試験結果から，柱-横架材接合部に使用する接合金物「在来工法用ウォールコーナー（床合板30mm仕様）」は，必要耐力15.0kN（15kN用引き寄せ金物）以上であることが明らかとなったため， 平成12年建設省告示第1460号表三（と）に定める接合方法の性能を満足する。</p>
試験期間	平成25年 8月20日
担当者	<p>構造グループ 統括リーダー 川 上 修 主 任 上 山 耕 平（主担当） 庄 司 秀 雄</p>
試験場所	中央試験所